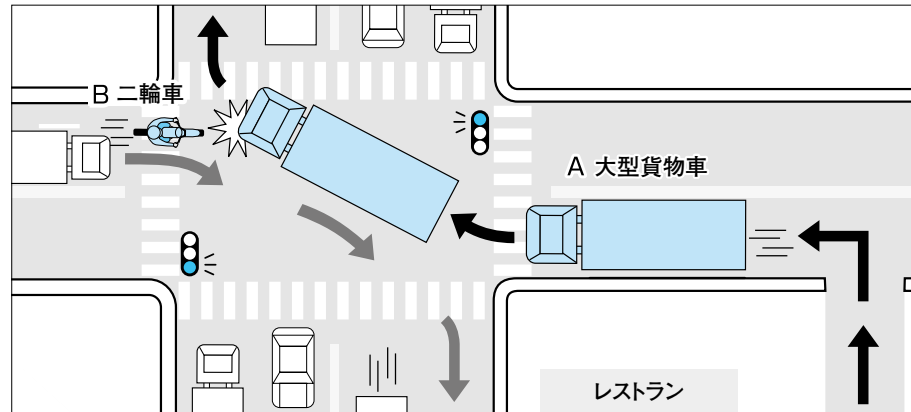


職場における交通安全指導

Part 79

① 交差点を右折する際、対向車線の自動二輪車と衝突



■事故の概要

- 発生状況
 - 日時：平成21年11月某日 午後9時頃
 - 天候：晴れ
- 道路状況
 - 片側1車線道路と片側2車線道路が交わる市街地の県道交差点
- 事故の当事者
 - 運転者A(大型貨物車)：60歳、男性
 - 被害者B(自動二輪車)：17歳、男性
- 被害状況
 - A：前部バンパー破損
 - B：右大腿骨骨折、全身打撲(全治6か月)

事故状況

Aは入社後20年になり、他の運送会社での乗務歴を通算すると30年になるベテラン運転者である。温厚な人柄であり、社内では模範運転者として信頼は厚かった。しかし、A自身は年を追う毎に低下する視力や疲労感から、体力に不安を感じていた。

事故当日は鋼材の輸送のため、若い同僚を同乗させて早朝に会社を出発した。

無事に一日の業務を終え午後8時ころ帰路に着いたが、帰路では一部交通渋滞が発生していた。

進行中、前方の信号が「青」であったことから、Aは交差点を右折しようと前進したが、右折先は2車線とも渋滞の影響から道路が塞がった状態であり、交差点の中央付近で一旦停止し右折待ちをした。その時、対向車線でも大型貨物車が右折のため、Aの車両に接近したところで停止していた。

Aと同僚は一旦停止中の間、仕事を終えた安堵感から会話が弾んでいた。

間もなくして進行方向の車両が動き始めたため、右折可能と判断し、その方向だけに視線を向け発進した。この時、一瞬遅れて動き出した対向車線の大型貨物車の陰から、一筋の明かりが迫ってくるのを認めたため、危険を感じ慌ててブレーキを掛けたが間に合わず、Bが運転する自動二輪車を前部バンパーで撥ねて転倒させ怪我を負わせた。

この事故原因は、Aが交差点を右折する際に進行方向の渋滞車両が動き出したのを見て発進が可能と判断し、その方向だけに眼を奪われ、対向車線への注視を怠ったまま走行したため、Bが運転する自動二輪車の発見が遅れたことにある。一方で、Bについても、交差点を直進するにあたり左右の安全を確認することなく高速で進入したことが事故の要因となっている。

安全指導

① ベテランドライバーの自覚

Aは社内では最も運転経験を積んだベテラン運転者であり、入社以来大型貨物車による運転業務に従事してきましたが、最近では体力の衰えに不安を抱え、とりわけ視力の低下を顕著に感じました。

運転中の疲れは主に神経の疲れであり、その影響はまず眼に強く現れるといわれています。

Aが交差点を右折する際、大型貨物車の陰から進行してきたBの自動二輪車の発見が遅れたのも、

多分に視力の影響が大きかったと思われます。「運転に必要な情報は90%以上が視覚に依存する。」とされているだけに、運転者にとって視力のチェックは欠かせません。

加齢に伴い、認知力、判断力および運動能力が低下することに配慮が必要ですが、とりわけベテランドライバーは、その日の体調が運転に及ぼす影響の大きさを常に念頭に置き、時にはドクターチェックを行い、普段から体調を整え心身の状態を良好に保つよう心掛けましょう。

② 気の緩みに注意

当日は、労力を要する業務であったことから同僚を同乗させましたが、これが二人の危険意識を希薄にさせたことは否めません。

二人は仕事を終えた安堵感から会話が弾み、特に同僚は、帰路では終始饒舌で話が絶えませんでした。

ベテランのAならば、運転開始後は若い同乗者の言動をいさめて運転に集中すべきでしたが、つい相手の話に乗って、気が緩んだ状態で漫然運転に陥ってしまいました。

二人が危険意識を持ち、お互いに連携しながら注意力を発揮すればより安全性が高まりますが、反面、普段気の合った同士が同乗すると往々にして気が緩み、注意力が損なわれることがあるので気を付けなければなりません。

車に乗務する者は、ひとたび車をスタートさせたら、人の命を奪い、人を傷つけかねない危険な乗り物であることを片時も忘れてはなりません。運転する際は、運転者だけでなく同乗者も危険意識を絶やさぬよう気持ちを引き締め、安全運転に努めましょう。

③ 死角に注意

Aが交差点を右折する際は、夜間でしかも交通頻繁な状況であったので、最大限に注意を払い運転することが求められましたが、気が緩んだ状態で安全確認が疎かになってしまいました。

大型貨物車の運転は、運転席から眼でもミラーでも捉えられない死角が車両自体に多く存在するばかりでなく、他の車両や建物の陰など周囲にも多くの死角が存在することを認識し、常に危険を予測した運転が必要です。

プロの運転者であれば右折の際、前方停止車両の陰から「二輪車が飛び出してくるかもしれない」というような予測は欠かせないことであり、厳しく危険予測を立て、車両の早期発見に努め、安全確認を徹底することが肝要です。

特に相手が二輪車の場合は車体が小さいので死角に入り易く、しかもハイスピードで走行するため、見落としや発見遅れは事故に直結する危険な要因となっています。

『見えないことは存在しないことではない』というのが安全運転の鉄則です。運転者はこのことを常に念頭に置き、交差点で右左折する際は、危険意識を強く持ち、死角部分に潜む危険を見落とさないよう安全確認を徹底しましょう。

④ 対二輪車事故の危険要因

交差点通行の際は、左折時の二輪車巻き込み事故、右折時の対向直進二輪車との右直事故が多く、重大事故となる危険が高いため、二輪車の特性を認識し、事故の防止に努めましょう。

二輪車の事故多発の要因

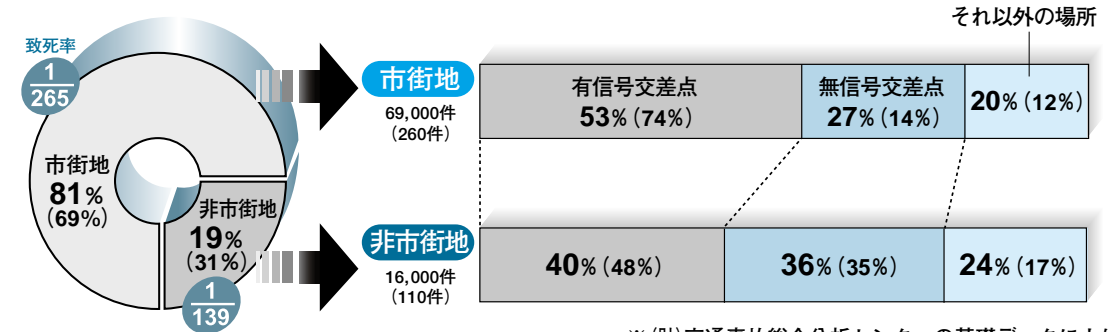
- ・小型のため死角に入り易く、見落としや早期発見が難しい。
- ・高速で交差点に進入する。
- ・バランスを崩し易い。
- ・前方を注視し、周囲への警戒意識が薄い。

二輪車の重大事故の要因

- ・衝突時に転倒する。
- ・轢禍(タイヤでひく)の危険性が高い。
- ・身体を防護するものがない。
- ・衝突後滑走し、二次事故の危険性が高い。

●市街地の有信号交差点で多発…

■地形別・道路形状別発生状況



※()内は死亡事故

※(財)交通事故総合分析センターの基礎データにより分析、自動車・原付相互および対自転車事故に限る